

第4回 高知龍馬空港・航空ネットワーク成長戦略検討会議
議事要旨

I 開催日時：平成31年2月13日（水） 10:00～11:45

II 開催会場：オーテピア高知図書館4階 研修室

III 出席状況

団体名	代表者名		備考
大阪航空局高知空港事務所	空港長	林 絹子	
四国地方整備局高知港湾・空港整備事務所	所長	高阪 雄一	
高知空港ビル株式会社	代表取締役社長	十河 清	
一般財団法人空港振興・環境整備支援機構高知事務所	所長	内田 裕人	
神戸税関高知税関支署	支署長	上野 敦司	
高松入国管理局高知出張所	所長	富士原 賢一	
広島検疫所高知出張所	所長	福井 昇	
動物検疫所神戸支所四国出張所	所長	籠島 恵介	欠席
神戸植物防疫所坂出支所高知出張所	所長	土手 二巳一	
全日本空輸株式会社 高知支店	支店長	後藤 昌弘	
日本航空株式会社 高知支店	支店長	磯村 康志	
株式会社フジドリームエアラインズ高知空港支店	支店長	秋山 正之	
ジェットスター・ジャパン株式会社	取締役常務執行役員	藤岡 秀多	
一般社団法人高知県バス協会	会長	片岡 万知雄	
高知県商工会議所連合会	専務理事	杉本 雅敏	
慶應義塾大学	教授	加藤 一誠	
南国市	市長	平山 耕三	
高知県市長会	会長	岡崎 誠也	欠席
高知県町村会	会長	池田 洋光	
高知県	副知事	岩城 孝章	

IV 次第

1 開 会

2 議 事

(1) 第3回検討会議のまとめ

(2) アクションプラン

具体的な取組及び関係者

実施体制

(3) 施設整備計画

3 閉 会

V 主な意見

(2) アクションプラン

<航空会社>

- ・ アクションプランには明記されていないが、伊丹路線についても需要を喚起することにより、機材の大型化を目指しているので、県にもご協力いただきたい。
- ・ 新ターミナルビルのあり方については、空港で勤務している方や、実務を担当している方の声をよく聞きながら、具体的な対応をお願いしたい。
- ・ 団体向けの施策に加え、日本人、外国人ともに増加している個人旅客への情報提供を行って、直接予約に結び付きやすい仕組みについて、皆様と一緒に検討させていただきたい。
- ・ これまでは、名古屋路線の朝の便は、名古屋のお客様には早すぎるダイヤだったが、昼の便を増便することで、名古屋からの高知インが非常に期待できる。
- ・ 春からの名古屋路線の増便に伴い、花巻（岩手）～名古屋～高知といった旅行商品の造成も考えている。
- ・ 今すぐというわけではないが、グランドハンドリングに使用する地上支援車両の不足も考えられるので、そのことも検討項目の一つに入れると良いのではないかと。
- ・ LCC の利用手続きが分からないというご高齢の方がいるので、広報媒体やキャンペーンによる周知活動はありがたい。
- ・ 若年層の需要喚起は、LCC に蓄積されたノウハウを活かしたプロモーションを実施いただくと相乗効果がある。
- ・ 海外からの旅行者は、地元の方が着目しない場所に魅力を感じることも多く、今は鳥取が一番人気とも聞いているので、そういう意味でも、工夫したアピールが必要である。
- ・ 若年層には自動車免許を持っていない人もいるので、観光地への公共交通機関の拡充を検討していただきたい。
- ・ 海外からの個人旅行者への対応として、現状の二次交通に関するインターネットの情報を多言語化させることも重要である。旅行先の情報を出発前からも得られるようにすることで、需要が増える可能性があると思う。
- ・ 特に高知市は、四国内の周遊を促進していくことで、より受益が得られて活性化につながる地域であると思う。

<経済界>

- ・ 成田と関西路線の就航、名古屋路線の増便が決定し、ビジネスで利用する立場としては非常にありがたく、ビジネス界から見ても、使い勝手が良い空港になりつつある。

<自治体>

- ・ JR 後免駅、とさでん交通の後免町駅、ごめん・なはり線のいち駅間を結ぶ効果的な輸送体系の構築について考えていただきたい。空港と JR 後免駅の接続により、幡多地域の利

用者も取り込める可能性がある。

- ・ 南国市中心部へは、公共交通機関を使いづらい状況であり、バス路線を整備することで、空港の利用者が増えていくのではないかと。
- ・ 外国からの個人旅行者が多くなっている中で、二次交通の問題が課題としてあるため、バス・タクシー業界も、利用しやすい交通ダイヤにできないかと。
- ・ レンタカーを利用される方もいるが、高知県の東西は非常に長いため、高速道路が整備されていけば、もっと二次交通を上手く利用できるのでは、高知県が持つ魅力をアピールできると思う。
- ・ 高知カツオ県民会議では、カツオ文化の日本遺産登録を目指しており、カツオ文化は国際的にも PR できるものなので、高知の空の玄関となる空港の整備には、本当に期待している。

<二次交通関係者>

- ・ 今後は、旅客が増加するだけでなく、インバウンドも増加することで、お客さまの層が変わってくる。データ重視を基本にし、かつ、お客さまの立場に立ってその声も聞きながら、運行頻度やルートなど、使いやすい二次交通にしていくための検討を進めていくので、色々な場面でご協力をいただきたい。

<グランドハンドリング関係者>

- ・ ジェットスター・ジャパン就航の際には、ハンドリング体制をなんとか整えることができた。
- ・ ハンドリングスタッフは、労働時間が目一杯の状況で勤務しており、増便やダイヤ変更により、さらに離職が加速するのではないかとと思っているが、なによりも、お客様のサービスと安全の確保を整えていくことが大事である。
- ・ 就航する路線や便数が増えるほど、ハンドリングの問題がさらに大きくなるジレンマを抱えているので、関係の皆様方には是非ともご協力をお願いしたい。

(3) 施設整備計画

<空港関係>

- ・ 施設整備については、これから詳細に関係者と詰めていかなければならないと思っているが、今まさに前進し始めた空港の需要に早く対応していただきたい。
- ・ セキュリティ関係・安全対策については、県や空港関係者全体で考えて、皆様に安心して楽しんでいただける施設になればと考えている。
- ・ 目標の 180 万人達成に向けて、利用者の属性を深く考えるとともに、ターミナルビルの基本思想も練り上げていけば、非常に良い空港になると思う。
- ・ 駐車場の容量を 922 台から 1,028 台に拡大しており、この年末年始は満車が発生したが、通常時はこの容量で足りると考えている。今後需要が増えた場合には、駐車場の容量拡大

の検討が必要かと考えている。

<航空会社>

- 新ターミナルビルの費用負担や、誰がどこをどう使うかについて、どこかのタイミングで確認することが必要である。
- 施設整備に関して、受益者負担分については適切に負担するつもりだが、既存の航空会社がどう関わるのかについては今後議論が必要である。
- 新しいターミナルビルの中身については、空港の実務担当者も含めて詳細な確認をさせていただきたい。
- 航空を取り巻く環境の動きが速いため、柔軟に対応できる施設が望ましいということだが、特に国際線の需要がどう変化していくのかは予測しにくいいため、国際線の需要の変化に伴う他空港の整備事例も確認すると良いのではないか。
- 新ターミナルビルの供用開始が後ろにずれるということになれば、1番スポットのPBBを先行して整備することも検討していただきたい。
- シニアや車いすの方、小さなお子様の利用者が増えていることを考えると、安全面でも、ステップを利用するより、PBBを整備した方が良い。また、PBBを作った方が、車両とマンパワーのコストについては、ステップを使ってオープンスポットを運用するよりも少なく済む。
- 航空会社のカウンター前は、一時的に混雑しやすく、並ぶスペースが不足することもあるので、工夫できる余地がないか検討していただきたい。
- 新ターミナルビルを使う人、使う会社によって、経営スタイル・経営モデルも異なる。大手の航空会社とLCCが空港ターミナルビルに求めるものが異なるので、そういった面も配慮して検討していただきたい。

<二次交通関係者>

- バスプールについては、チャーター便のときなどは3台のバスが必要であり、レンタカーの乗り入れも含めて考えた場合、移設先は別の場所も考えるべきではないかと思う。

<CIQ>

- 具体的なサイズ表示がないため明確なサイズは不明であるが、示された図面だけを見ると、狭いという印象を受けている。
- 国際定期便が就航するとなれば、大型の検査機器を配備する必要がある。将来的に定期便の就航も想定しているのであれば、検査ブースの近くに検査機器を置けるスペースも考えた方が良い。
- どの地方空港も台湾ばかりを誘致しているように思われる。高知ならではの別の国からの誘致に、取り組んでいくことも一つの手である。
- 今後、国際チャーター便を受け入れるときには、PNR（事前予約情報）での情報共有を

していただきたい。

- ・ 国内線と国際線の各種動線の分離が必要である。1番スポットを内際共用にするのであれば、想定できる危機管理についても検討していただきたい。
- ・ 植物類の検査カウンターは可動式でよいので、検査場所だけを確保していただきたい。

<空港関係>

- ・ これから、施設の費用・面積・仕様について、県と一緒に決めていかなければならないので、詰めていく航空会社の代表者を教えていただきたい。
- ・ 高知龍馬空港は、全国の中でも最大の津波が押し寄せる可能性がある空港である。津波や地震対策をどうするのかについても、他空港の事例から学び、皆様の知恵も借りながら、新施設の整備を進めていく必要がある。

VI 座長の取りまとめ

- ・ 本検討会議での一年間の議論により、3年後の目標値を設定し、需要喚起、受入体制の改善、施設の機能強化という形でアクションプランを作成し、新ターミナルの整備計画も作成することができた。
- ・ 既存路線のさらなる拡充、空港の国際化を目指していくためには、新ターミナルの整備を含めて、空港全体をさらに活性化していくことが必要である。
- ・ これからの直近の課題としては、施設整備計画の具現化になるが、関係諸機関のご協力のもと、県が主導し、基本構想を策定していただく方向で取りまとめとしたい。

以上